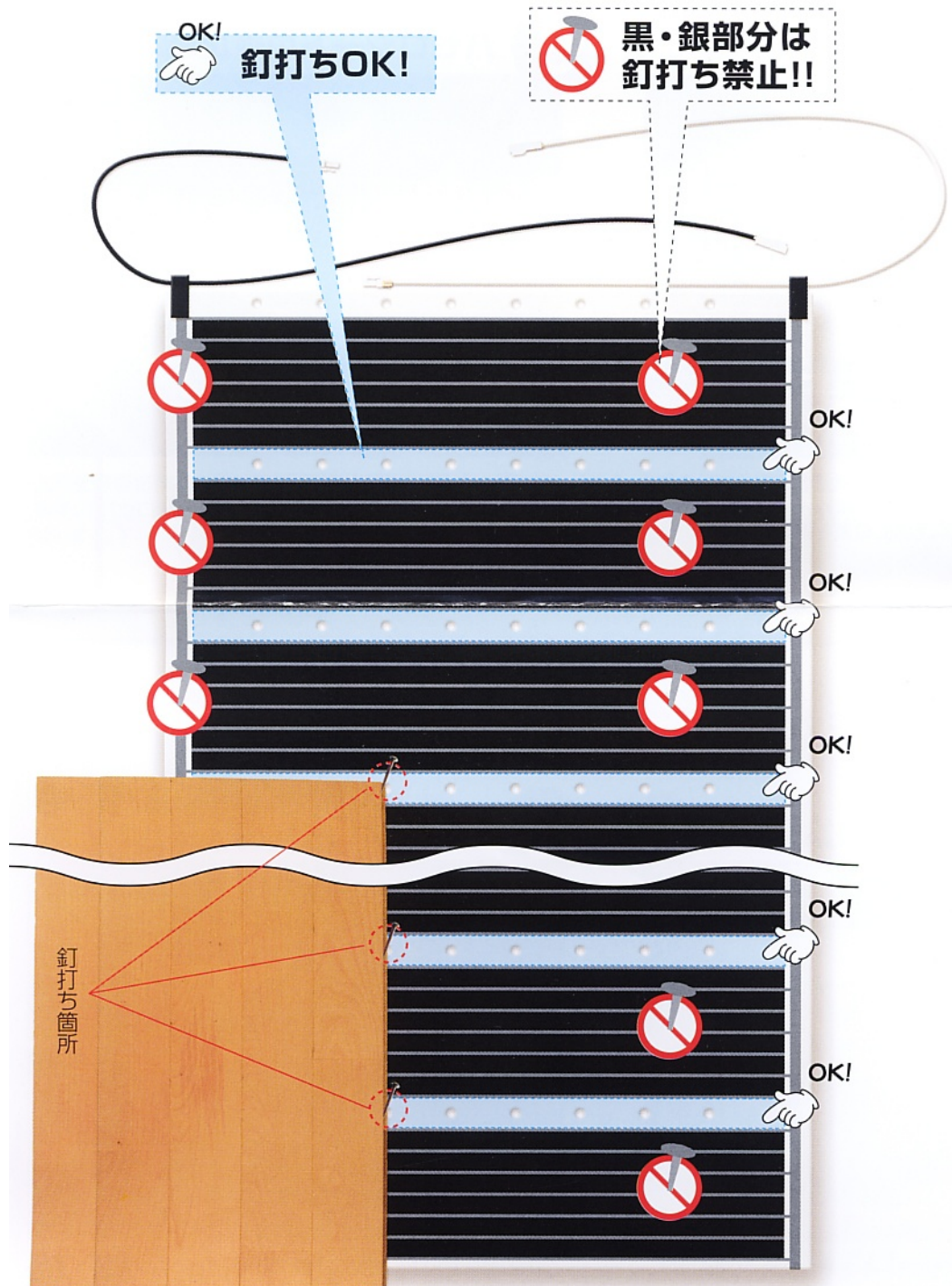


遠赤外線床暖房「パセロ」

施工マニュアル「施工概略図」

■施工概略図

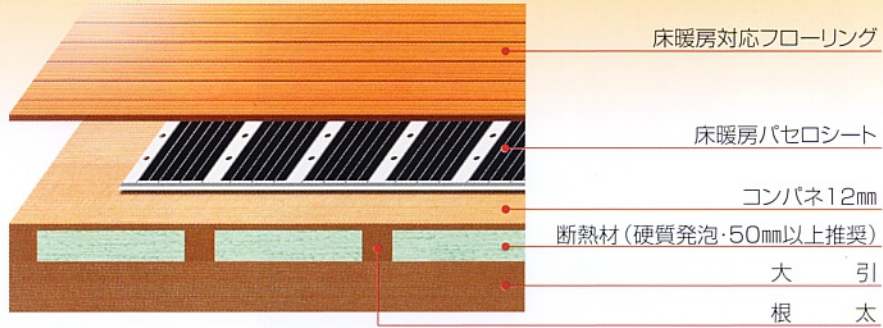


仕上げ材別施工図

■ 仕上材別 施工図

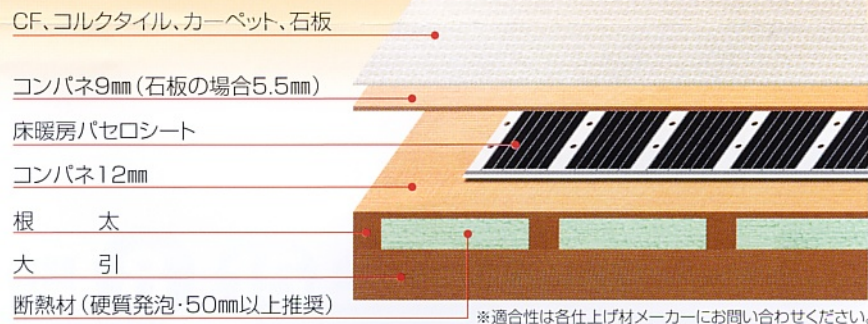
● フローリング施工図

WOOD FLOOR



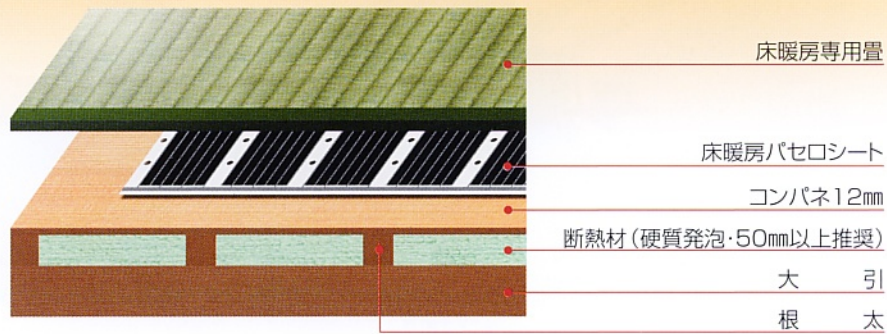
● クッションフロア、コルクタイル、石板施工図

CUSHION FLOOR



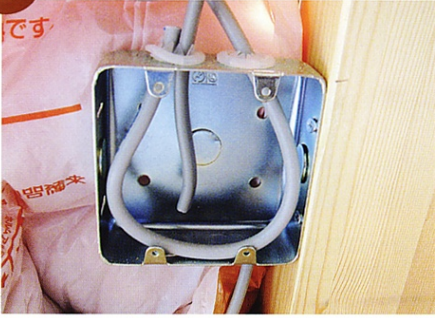
● 畳施工図

TATAMI



施工手順

1 一次配線とコントローラボックスの取付け



コントローラ取付け位置(床から1200mm程度)を決め、壁にJISスイッチボックス2個用(現場調達)を取付け、一次側電源コードを引き込みます。

2 下地の確認(下地コンパネはビス止め)



下地は乾燥材を使用し、平滑にして必ず掃除機などで掃除をする。

下地は必ず乾燥材を使い、釘の頭や針金、段差や節などを平滑に処理します。その後、掃除機などでゴミ、木ズなどをきれいに掃除します。

3 仕上材(フローリング)の墨出し



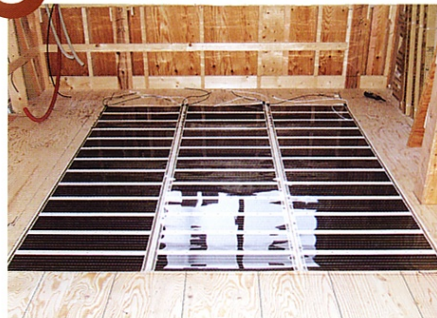
仕上材(フローリング)の貼り出し位置と仕上材の幅で割り付けの墨出しを行います。

4 敷設位置決めと移動



敷設場所のPaseoシート枚数と長さ四辺の墨出しを行い、敷設位置にPaseoシートを置きます。その際、一人で引きずらずに、必ず2人でPaseoシートの両端を持って運びます。

5 Paseoシートの仮置き



Paseoシートの両端導体(銀色)部分と地墨が重ならないようにし、根太組工法では、根太の真上にPaseoシートの白色部分(穴あき部分)の中心がくるように敷設し位置を確定させます。

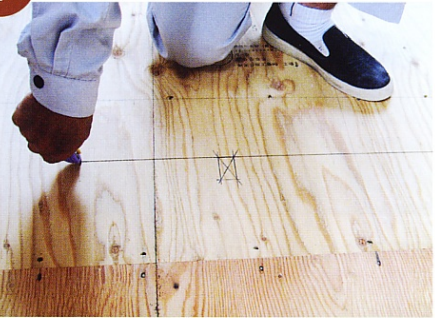
6 Paseoシートの仮止め



Paseoシートのリード線のついていない側半分をタッカー(養生テープ)で数ヶ所止めます。

床上配線の場合

7 配線経路の位置決め・墨出し



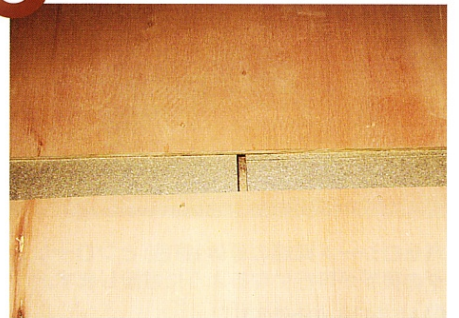
樹脂成型端子部分が収まるように、配線経路50ミリとコントロールの追線経路20ミリの位置を決め、下地コンパネに墨出しを行います。

8 配線経路作業の前に



配線経路作業ができるように、Paseoシートを半分位めくり返します。

9 配線経路作業



⑦の印部分の下地コンパネを丸ノコなどで切り取ります。

10 掃除



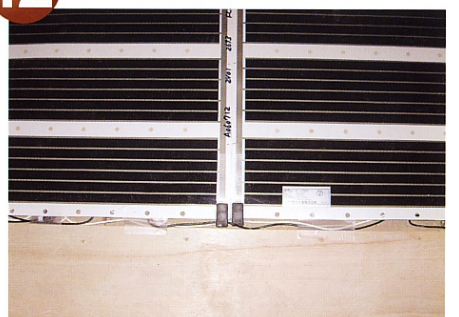
⑨の配線経路作業で出たゴミ、木ズなどを掃除機で吸い取ります。(Paseoシート下面にエアを吹きつけ、木ズなどを飛ばします。)

11 Paseoシートの仮止め



正確な位置にPaseoシートを置き、タッカー(養生テープ)で数ヶ所固定します。(白色部分以外には打たないでください。)

12 リード線・追線の仮止め



コンパネの溝にリード線(白・黒)とコントローラ側追線を収めます。

床下配線の場合

7 開口部分の位置決め



リード線（白・黒）と樹脂成型端子部分が床下に吸収するようにするため、下地コンパネに端子位置の印をつけます。

8 開口作業の前に



開口作業ができるように、パセロシートを半分位めくり返します。

9 開口作業



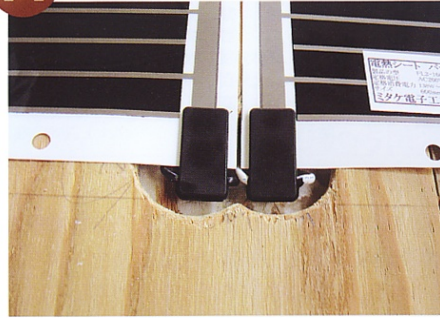
⑦の印部分をドリルで50φ（または30φ2連）の穴をあけ、穴の内側を面とします。

10 掃除



⑨の開口作業で出たゴミ、ホコリなどを掃除機で吸い取ります。（パセロシート下面にエアを吹きつけ、ホコリなどを飛ばします。）

11 リード線（白・黒）の床下投下



⑨であけた穴にパセロシートのリード線（白・黒）を投下します。（開口部分に凸部があれば調整します。）

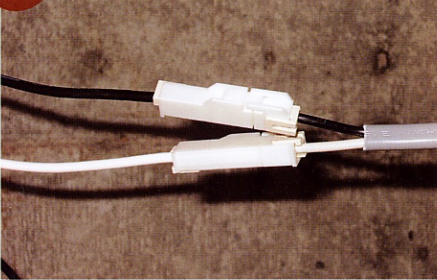
12 パセロシートの固定



正確な位置にパセロシートを置き、タッカー（養生テープ）で数ヶ所固定します。（白色部分以外には打たないでください。）

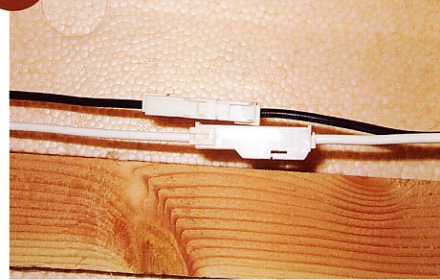
結線方法 一床上・床下配線共通

13 コントローラ側追線と1枚目との結線



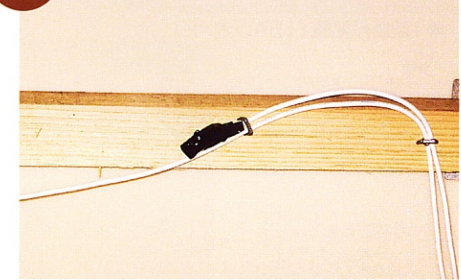
まず最初にコントローラ側追線（付属品）と、コントローラに一番近い1枚目のパセロシートの結線を同色どうし（白と白・黒と黒）で行います。

14 2枚目以降との結線



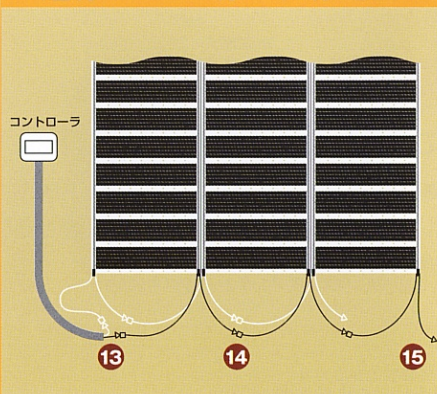
1枚目のパセロシートの余った短いリード線と、2枚目の長いリード線を同色どうしでつなぎます。（以降同様）

15 絶縁処理



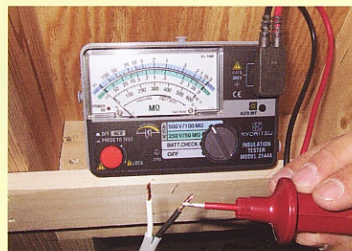
最後のパセロシートのつながっていないコネクタを絶縁テープで絶縁処理します。（最後のパセロシートのリード線は白・黒一本ずつ必ず余ります。）

追線・リード線の結線略図

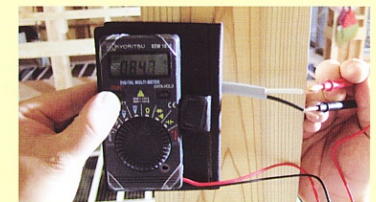


重要 電気試験

パセロシート敷設後と仕上材敷設後に必ず行ってください。



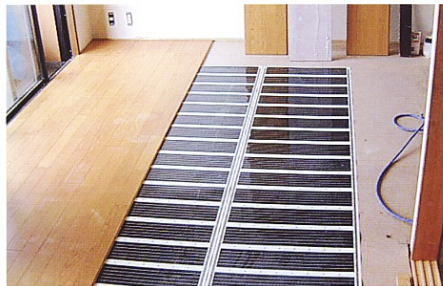
○絶縁抵抗計（DC500V）で漏電チェック
※50MΩ以上で合格としますが、コンパネが濡れている場合や雨天時には、50MΩ以下になる場合がありますので、湿気を考慮の上測定してください。



○テスターで合成抵抗値を確認
合成抵抗値=電圧（100V/200V）÷シート合計アンペア数
（実入電流：200V=1.04A/m、100V=1.53A/m）
※合成抵抗値はPTC特性により、外気温で左右されます。20℃環境で実入電流数値に対して±20%程度が範囲内です。夏場はプラス、冬場はマイナスの値となりますので、外気温を考慮の上測定してください。

仕上材別施工方法

〔1〕フローリング



パセロシート両端の導体(銀色)とフローリングの長手が平行になるように敷設します。

Ⓐ 釘(手打ち)のみでの施工

Ⓑ 釘と耐熱用ボンドでの施工

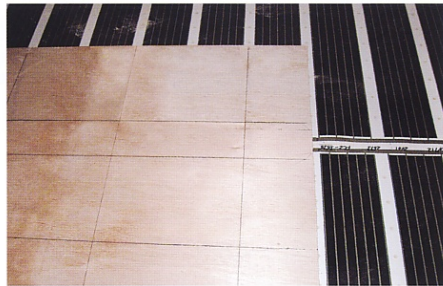
- ・パセロシートの白色部分に等間隔の穴があいていますのでビード止めします。

Ⓒ 耐熱用ボンドのみでの施工

- ・下地コンパネ(ゼットロン等)全面にヘラで均等になるように耐熱用ボンドを塗ります。
- ・上記の上にパセロシートを敷設し、パセロシート上全面にヘラで均等になるように耐熱用ボンドを塗りながらフローリングを貼ります。(最後に養生をし、突っ張りをして下さい。)

※注) ステーパーによる施工は、返り釘により、シートに傷を付ける場合があります。

〔2〕クッションフロア、コルクタイル、石板



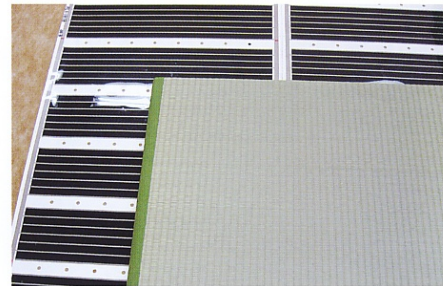
パセロシート上にコンパネ9ミリ(石板の場合5.5ミリ)をビス止めし、その上から耐熱用ボンドで張ります。

Ⓐ 導体(銀色)と白色部分を拾い、コンパネに地墨をつけます。

Ⓑ 導体(銀色)部分はビス止めしてはいけない場所です。白色部分の地墨上にビス止めします。

Ⓒ 上張りコンパネ上に耐熱用ボンドで塗り、各仕上材を施工します。

〔3〕畳



床暖房専用畳をパセロシート上に直接置きます。

Ⓐ パセロシートが絶対に動かないように、数ヶ所白色部分をタッカーで止め固定します。

(各コーナー部分は必ずタッカーで止めて下さい。)

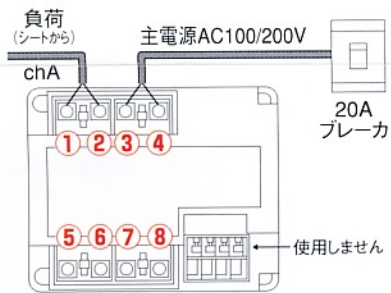
Ⓑ パセロシートの四辺全てを養生テープで止めます。(パセロシートの折れ曲がり防止する為。)

Ⓒ 床暖房専用畳をパセロシート上に直接置きます。

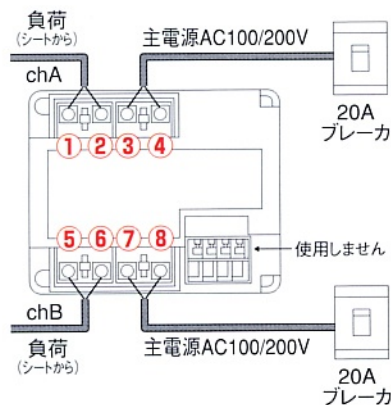
コントローラの取付

電気系統図

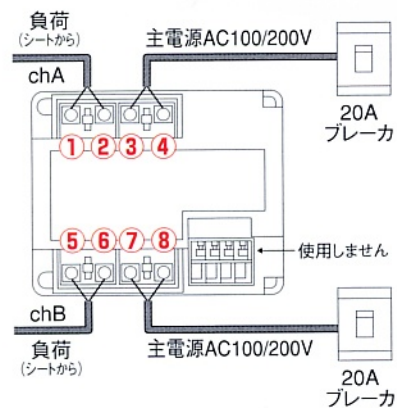
●1回路用結線(15A以内)



●1回路用結線(15A以内×2)



●2回路用結線(15A以内×2)



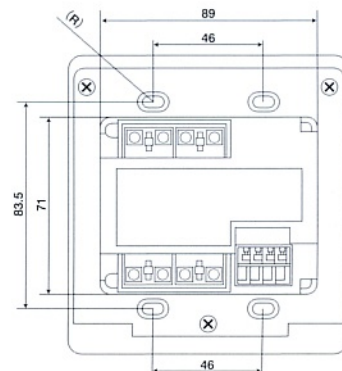
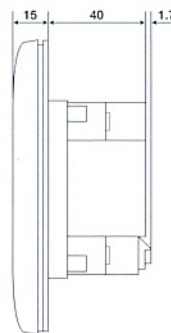
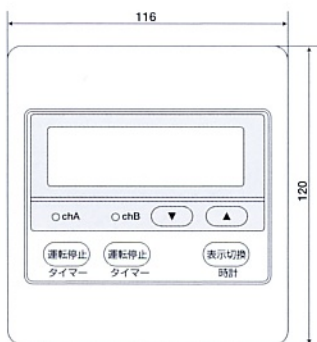
- コントローラは1回路用・2回路用共にAC100V、200V兼用タイプです。
- 負荷は突入電流で設計し、chA、chB共に15A(1.5kW/100V、3.0kW/200V)以内でつないで下さい。
- コントローラボックスは付属しておりません。JISスイッチボックス2個用(現場調達)にてコントローラを取り付けて下さい。
- コントローラにパセロ用追線を差し込む際は、パセロ用追線に棒端子を接続してコントローラに差し込んで下さい。

負荷が15A以内の場合、chA(①②③④)のみ使用します。

chA(①②)に負荷15A以内を、chB(⑤⑥)に負荷15A以内を接続します。(chA、Bは同時運転です。)

コントローラ外形寸法図

(1回路用・2回路用とも同じ外形寸法です。) 単位:mm



chA(①②)に負荷15A以内を、chB(⑤⑥)に負荷15A以内を接続します。(chA、Bは独立運転です。)

株式会社EMMAX

神奈川県川崎市高津区久地 1-15-2 TEL 044-820-8117 FAX 044-820-8110

<http://www.emmax.jp> info@emmax.jp